

第6回教育哲学会奨励賞 選考結果および授賞理由

選考結果

第6回の教育哲学会奨励賞は、『教育哲学研究』第118号、119号に掲載された論文を対象として理事会において選考を行い、奨励賞にふさわしい論文として、森祐亮会員の「人間形成における「媒体」としての範例——G. ブックのカント解釈——」（『教育哲学研究』第118号所収）を受賞作として選定した。

授賞理由

森論文は、ドイツの教育哲学者であるギュンター・ブックにおける「人間形成 (Bildung)」論の特徴を、彼におけるカント哲学の批判的受容を辿ることによって解明することを目的とした論文である。森論文は、まずカント哲学に基づく「自律と他律のアポリア」に対するガダマーによる批判の検討を経由し、他律から自律への移行をカント的な立論に基づいて「跳躍」を要求するものとするのではなく、緩やかな過程として理解する道筋を示唆している。その後、カントの批判哲学とガダマーの解釈学の間にブックの人間形成論を位置づけながら、ブックが両者の哲学を批判的に受容しつつ、「経験」と「普遍性」の一方に重点を置いてしまう思考をいかにして回避したかが跡付けられる。そして、経験と普遍性が相互に条件づけ合うなかで自己が生成していくという彼独自の思考へと至る過程が浮き彫りにされている。最終的に、「範例 (Beispiel)」こそがブックの人間形成論において経験や歴史性と普遍性とを媒介する役割を与えられた重要な教育的要素であることを、主として彼のカント『判断力批判』解釈の検討を通して明らかにしている。

哲学によって基礎づけられた教育原理上の〈自律／他律〉をめぐる根本問題が無批判に否定するのではなく、哲学に内在する議論を眺め直すことによって再構成し、教育実践にも接続可能な人間形成論を打ち立てた点に、教育哲学におけるブックの最大の貢献がある。森論文は、その手堅い考察によってそのことを明確に描出してみせた。ブックの「範例」論に関連する哲学的背景の広がりについてはまだ検討の余地が残されており、ブックが学習理論において重要な功績を挙げていることを顧慮するならば、ブックの哲学的な人間形成論が「範例」論を経由してより具体的な教育実践に関する議論とどのように接続したかを検討することも重要であろう。また、ブックの思考法に対する批判的検証がなされれば、なお興味深い。とはいえ、それらは著者が本論文を基盤としてさらに別稿で取り組むべき課題のいくつかとして位置づけられてよいだろう。森論文は、哲学的な議論を経て教育学(教育哲学)的な問題構成へと至る際の力動的な問いの展開とはいかなるものであるかを考えるうえで、重要な事例を提示してくれている。研究目的の明確さと的確さ、先行研究批判的吟味を踏まえた論の展開、テキスト読解の慎重さ、根拠資料選定の信用度、論文形式の妥当性と一貫性、結論の明快さと説得性などの点においても、奨励賞の水準に十分に達していると評価された。

以上をもって、理事会では森祐亮会員の「人間形成における「媒体」としての範例——G. ブックのカント解釈——」を第6回教育哲学会奨励賞にふさわしい論文として選定した。